

天沼小だより

文責

校長 大里 忠弘



ウイルスについて学習しました

学校が再開したとはいえ、現在は分散登校の段階です。これからも、コロナウイルスの感染予防には十分注意しなければなりません。本校でも、子どもたちには、マスクをつけること、お互いの距離をあけること、こまめに手を洗うことなどを繰り返し指導しています。校内の換気や消毒にも心がけています。

子どもたちと一緒に、ウイルスについて、あらためて次のような学習をしました。

- ・ウイルスは人の体の中で増える。
- ・体の中でウイルスが増えると、重い病気になり、死んでしまうこともある。
- ・その人の免疫力、体力が十分強いと、ウイルスに感染しても病気が軽くすんだり、発病しなかったりすることもある。
- ・ウイルスは、人の口から、つばや、吐く息と一緒に外に飛び出す。
- ・人の体から外に出たウイルスは、数時間で感染力を失い、無力になる。
- ・感染力がなくなる前に、別の人の体に入ることを感染という。
- ・まわりにあるかもしれない、感染力のあるウイルスを、自分の体の中に入れていないようにすることが大切。



養護教諭の小野先生が

クラスをまわって保健指導

生きる力は自己判断



外遊びの仕方や遊具の使い方について、具体的な制限をする方が良いのではないかと話題になりました。

友だちとのハイタッチはいいのか。ブランコや滑り台を使ってもいいのか。ボールを投げ合うのは良いのか。・・・

これはいい、あれはだめ、とひとつひとつについて学校から決めることが果たして正しいことなのかと悩ましいところです。

コロナ感染に限らず、善悪の判断など、自分で考えなければならぬことがこの先いくらでも出てきます。

やって良いこと、悪いことについても、人に決めてもらうのではなく、自分で考え、自分で判断することが大切です。本校の子どもたちも、そうした判断力を身につけて欲しいと願います。

友だちと少し離れた方がよい。外で遊んだり、ものを触ったら手を洗う。むやみに手指で目や口を触らない。周りに人がいる場所では、つばを飛ばさないようにマスクをつける。免疫力を高めるために、食事や睡眠に注意する。といった基本的なことを定着させることに加えて、子ども自身も、ウイルスについて学んだ知識を生かして、自分で考えながら「新しい生活様式」になじんでいかなければなりません。大切な子どもたちを守りつつ、必要な生きる力も培っていきましょう。

不織布マスクの寄付をいただきました

昨年度天沼小を卒業された白石清乃さんのお父様から、マスクを 1500 枚ご寄付いただきました。お仕事の関係で、中国から個人輸入することができたものだそうです。有効に活用させていただきます。白石様は、相生中学校にも同じく 1500 枚のマスクを寄贈してくださいました。